

2014 年度 第 1 回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 平成 26 年 5 月 26 日(月) 13 時 00 分～16 時 30 分
2. 場所 建築会館
3. 出席者 多田元英, 井戸田秀樹, 稲岡真也(オブザーバー), 河野昭彦, 木村祥裕,
(敬称略) 澤本佳和, 吹田啓一郎, 田川泰久, 寺田岳彦, 玉井宏章, 中込忠男,
成原弘之, 平島岳夫, 藤田正則, 増田浩志, 緑川光正, 見波進,
宇佐美徹(記録)
欠席:一戸康生, 岡本哲美, 越智健之, 笠井和彦, 向野聡彦, 竹内 徹,
中島正愛, 西山 功

4. 配付資料

- 01-01 2014 年度第 1 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
01-02 2013 年度第 5 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
01-03 資料なし
01-04 座屈小委員会
01-05 接合小委員会
01-06 2014 年度第 1 回鋼構造制振小委員会議事録(案)(緑川委員)
01-07 鋼構造耐火設計小委員会第 19 回議事録(案)(平島委員)
01-08 鋼構造環境小委員会 2013 年度第 7 回議事録(藤田委員)
01-09 平成 26 年度第 1 回鋼構造素材小委員会議事録(案)(見波委員)
01-10 2013 年度鋼構造塑性設計小委員会第 6 回議事録(案)(玉井委員)
01-11 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG 第 4 回議事録(田川委員)
01-12 2014 年度大会 PD 資料(玉井委員)
01-13 環境小委員会集中審議資料(藤田委員)
01-14 質疑回答の一覧(井戸田委員)
01-15 鉄骨構造分野における兵庫県南部地震後の動き(多田主査)
01-16 鋼構造関連の規準・指針の位置付け(井戸田委員)
再掲 鋼構造関連の規準・指針の編成(多田主査)2013 年度資料 04-19
01-17 東日本大震災合同調査報告書(建築)編集委員会(5 月 22 日)メモ(寺田委員)

5. 議事内容

- (1) 稲岡委員, 平島委員, 見波委員より新任のあいさつがあった。
(2) 資料 01-02 に基づき前回議事録の確認がなされた。
(3) 資料 01-06~01-11 に基づき各担当委員より小委員会および WG の報告がなされた。なお, 委員の委嘱等で運営委員会が承認したものは, 各小委員会の主査から学会事務局に連絡して本委員会の承認を得ること。

座屈小委員会(井戸田委員), 接合小委員会(増田委員)

- ・ 次回の小委員会開催日程について報告があった。

制振小委員会(資料 01-06, 緑川委員)

- ・ 講習会までのスケジュールが説明された。原稿の修正は3稿まで実施し、出版は9月末になる予定である。(緑川委員)

耐火設計小委員会(資料 01-07, 平島委員)

- ・ 河野^守委員の溶接部の高温時の挙動等、指針の次期改定の取込み項目について説明がなされた。
- ・ CFT の取り扱いについては、耐火設計小委員会と CFT 構造設計規準検討小委員会とで相談して検討していきたいと思う。(河野^昭委員)
→CFT 指針に耐火設計の記述を設け、それに従う形を考えている。(平島委員)

環境小委員会(資料 01-08, 藤田委員)

- ・ タイトルは”環境に配慮した鋼構造のリユース設計指針”として”指針”を入れ、9~10月頃に原稿が完成する予定である。(藤田委員)
- ・ 鋼構造運営委員会の査読は西山委員と稲岡委員にお願いする。(多田委員)

素材小委員会(資料 01-09, 見波委員)

- ・ 委員として松下真治委員を委嘱する。(運営委員会承認)
- ・ データベースの公開は、学会員に限定し、利用者を確認できるようにする。管理は山田委員に依頼する。(見波委員)
- ・ 利用規約については学会事務局の伏見氏に相談した。(見波委員)

塑性設計小委員会(資料 01-10 玉井委員)

- ・ PD に向けた議論がなされたことが説明された。
指針改定に当たり、改定前の内容を指針に残すか否かに関しては、学会 HP 上 (<http://www.ajj.or.jp/da1/shiyoukijyun/kouzou.html>)から旧指針をダウンロードできるため、残さなくても良い旨を確認した。

鋼構造関連規準・指針の英文化 WG(資料 01-11, 田川委員)

- ・ 9月の集中審議で、鋼構造運営委員会に諮りたい項目(疲労、柱材、柱脚等や日本独自の施工と関係の深い内容の取扱い)を洗い出している。(田川委員)
→集中審議内では決まりそうにないので、別途時間を設けたほうが良いと思う。(吹田委員, 井戸田委員)
 - ・ 専門家としてアランバーデン氏の WG への参画を検討している。WG への委嘱も含め、検討を進める。(田川委員)
- (4) 資料 01-12 に基づき本年度大会 PD の準備状況について玉井委員より説明がなされた。
- ・ PD に向け、6月30日より PD 原稿の小委員会査読を開始する。(玉井委員)
- (5) 重点審議として、資料 01-13 に基づき藤田委員より環境に配慮した鋼構造のリユース設計指針について説明がなされた。
- ・ 執筆に当たっては“建築部材のリユースマニュアル”を参照した。(藤田委員)
 - ・ 作りたい建築物に合致する解体物件を探して設計できないか。(河野^昭委員)
→ストックが難しいため、解体後に利用するターゲットを考えて設計することとしている。(藤田委員)
 - ・ 設計例はこれまでの経歴が明確な物件を対象とした。(藤田委員)
 - ・ 建築主事等が F 値を妥当とする判定の条件は何か。(中込委員)
→設計者判断としている。(藤田委員)

- ・ 損傷を考慮した設計には塑性化以外に座屈問題もあるので、記述内容が独り歩きしないように配慮すること。(多田主査)
 - ・ 指針であれば、条件も含め設計の道筋手続きを示して実現可能であるべきで、可能性のある方法の提案だけでは設計指針として不備である。(吹田委員)
→指針とできるか否かは小委員会で検討してほしい。(多田主査)
- (6) 資料 01-14 に基づき井戸田委員より学会図書の質疑回答の報告がなされた。接合小委員会への質問(質疑日 2014/3/13)は質問者への回答連絡の有無を確認する。田川委員への質問(質疑日 2014/3/17)は回答担当者へ状況を確認する。
- (7) 資料 01-15 に基づき、多田主査より構造部門研究協議会の原稿について説明がなされた。
- (8) 資料 01-16 に基づき、井戸田委員より鋼構造関連の規準・指針の位置付けについて説明がなされた。
- ・ 限界状態(使用限界, 損傷限界, 修復限界, 安全限界)と各指針との関係を整理することで、位置付けは説明できる。(井戸田委員)
 - ・ 同じ内容を計算するために複数の指針で計算方法が異なる場合があるが、ユーザーの立場から見ればダブルスタンダードでは使いにくいので統一する方向でまとめるべきである。(吹田委員)
→計算の効率を求めるか、計算するため(意思決定)の情報とするかで扱いが変わる。(中込委員, 井戸田委員)
 - ・ 学会理事会には基準法に足並みを揃える動きがあり、また海外では指針に免責を記述するケースもある。(河野^昭委員, 緑川委員)
 - ・ 今後の検討に当たり、委員から下記の報告書、書籍が紹介された。下記の報告書は以下からダウンロード可(<http://strage.ajj.or.jp/strage-system/files.html?folder=BF00/規準・指針のあり方>)。
 - ✓ 鋼構造性能設計ガイドライン(出版中)
 - ✓ 学会規準・仕様書のあり方検討委員会報告(答申)(2001.04.17)
 - ✓ 構造関係規準・指針の将来検討 WG 報告書(2007.12.17)
 →これらの資料を参考にまとめて整理していく。(井戸田委員)
 - ・ 今後も引き続き議論を行う。情報交換を進めるために、ストレージサーバーにフォルダーを作成のこと。(多田主査)
→<http://strage.ajj.or.jp/strage-system/files.html?folder=BF00/規準・指針のあり方>
- (9) 資料 01-17 に基づき、寺田委員より東日本大震災合同調査報告書(建築)編集委員会の報告がなされた。
- ・ 鉄骨造分 230p, シェル・空間構造分 200p 弱であり、DVD と B5 の概要版をセットで7月に出版予定である。希望者には A4 の印刷版も用意する。(寺田委員)
 - ・ 鉄骨造/シェル・空間構造では、A4 フル版を編集せずにそのまま B5 の概要版とする。(緑川委員)

6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
 - ✓ 第2回運営委員会:耐火小委員会
 - ✓ 第3回運営委員会:規準・指針の英文化 WG

- ✓ 第4回運営委員会:なし
- ✓ 第5回運営委員会:素材小委員会
- ・ 今後の運営委員会の日時, 場所は以下の通り.
 - 第2回 2014年8月1日(月), 13:00-17:00, 於:建築会館
 - ✓ 来年度PDテーマ
 - 第3回 2014年9月11日(木), 15:15-18:00, 於:神戸国際会館セミナーハウス